

子どもたちに伝えたい防災のこと<キックオフセミナー>

このセミナーは、2012年3月、東日本大震災一周年を前に行われる「子どもたちに伝えたい防災のこと2012」の前段として、岡山の現状を講演やビデオ上映で学び防災に関する知識や取り組みを考えていただくことを目的に、震災に多くの職員を派遣した全労済岡山県本部が、子育て支援に携わるNPO等に呼びかけて開催されました。参加申込は定員を大きく超えて当日までに400名、最終的に350名余りが参加されています。



震災直後の様子を伝える東京消防庁の映像や通信社の写真をプロジェクターで写し、会場に集まった皆さんと、2011年3月11日の震災の事実にもう一度向き合いました。その後、開会に先立ち、ご来場の皆様と共に震災で犠牲になられた方々に黙祷を捧げました。案内役はアナウンサーの中村恵美さんと、おしゃべりマウスの“元気くん”です。



中村 | 今このときも日本全国で、あの震災が残した課題に取り組む人たちがいます。なにかできないか、という思いの方もたくさんいらっしゃるでしょう。今日は、そんな想いで集まったみなさんと震災を振り返り、私たちが今なすべきことについて考えてみたいと思います。

中村 | さて、震災からしばらくたって、日ごろからの防災への備えが生死を分けた事例がいくつか報告されています。

元気 | ぼく、知ってる。こどもたちが率先して逃げて、たくさんの命が助かったって。逆におとなといっしょにいても失われた命があったって。つなみてんでんこ、っていうんだよね。中村さん。おじいちゃんおばあちゃんの、そのまたおじいちゃんおばあちゃんの、、、なにしろずっと前から、その土地で昔話として、子どもに話して聞かせてきたんだよ。地震が来たら何をおいてもすぐに一人で高いところに逃げろって。でも、岡山県は「晴れの国」って言われているから、大丈夫なんだよね。だから防災の事なんて考えなくてもいいんだよね。

中村 | 本当にそうかな？ さっき、ずっと昔の話っていったでしょ。ずっと昔の岡山ではどうだったか、元気くん、知らないでしょ。自分たちの住む場所のこと、もっと知らなきゃいけないんじゃないかな。それに、どこで地震にあうかわからないから、まさかのときの備えや行動を知っておくことは大切じゃない？

元気 | そうだね。今日はいろんなことを学んで、防災の事を知ろうと思います。

プログラム 1 地震の基礎知識と岡山に与える影響

地震の起こるメカニズムを知ること、そして過去の教訓から想定外を学ぶこと

岡山理科大学 教授 西村敬一先生



西村先生のお話はわかりやすく、70分の講演時間があっという間でした。

地域の話が出ると皆さん身乗り出して聞き入り、質問時にはたくさんの方が手を挙げて下さいました。

地元倉敷のFM局「エフエムくらしき」の防災ラジオの話題も、全国で初めての取り組みだったようです。

プログラム 2 子どもに地震・津波をどう伝える？

地域の防災力を高めるために有効な「子ども向け防災プログラム」を、岡山で考えよう



アメリカでは心理療法などに使われているパペットを登場させ、県内で活動しているボランティアの様子や、様々な事例を紹介しました。



子どもたちに伝えたい防災のこと<キックオフセミナー>開催概要



http://dl.dropbox.com/u/684212/%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%B7/111203_bousai_2.pdf
http://dl.dropbox.com/u/684212/%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%B7/111203_bousai_1.pdf 体験していないから防災教育ができない、という

のは大人の言い訳。岡山の子どもたちの'いのち'を守るために、私たちはここから始めます。

震災の発生から半年が過ぎ日常生活に戻ろうとしている今、日本の風土の中で自然災害から身を守るための活動が地域に根付き、子々孫々に伝えられることが、何よりも必要であると感じています。

子どもたちが自然の脅威にさらされた時に自らを守るための知恵をわかりやすく伝えること。そのための仕組みを地域の皆さんと一緒に作りあげていくための第一歩が、今回のキックオフ・セミナーです。



日 時： 平成 23 年 12 月 3 日(土) 開演 10:00(会場 9:30 ~)

場 所： ママカリフォーラム レセプションホール

主 催： 全労済岡山県本部

共 催： NPO 法人子ども劇場岡山県センター、NPO 法人岡山市子どもセンター、
NPO 法人子ども劇場笠岡センター、一般社団法人チカク

後 援： 岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、倉敷市、山陽新聞社、
RSK 山陽放送、社団法人岡山県労働者福祉協議会

子育て支援事業などに取り組む一般社団法人チカク（倉敷市阿知）、全労済県本部（岡山市北区駅元町）などは、子ども向けの体験型防災教育プログラムの開発、普及に取り組んでいる。11月に倉敷市の保育園でモデル授業を開催。その模様を収めたビデオを使って3日、防災教育セミナーを岡山市で開催。（大橋洋平）

早くから防災意識を

子ども向けプログラム開発、普及



プログラムの様子。倉敷市阿知の保育園で11月、倉敷市中央の大震災を教訓に、幼児（市北表町）などが臨期から災害への対応力、危機管理アドバイザーを養うのが狙い。全労済（岡崎信江さん）と全労済県本部が主催。岡山市を講師に内容を動として企画し、チカクが実施している。

プログラムの様子。倉敷市阿知の保育園で11月、倉敷市中央の大震災を教訓に、幼児（市北表町）などが臨期から災害への対応力、危機管理アドバイザーを養うのが狙い。全労済（岡崎信江さん）と全労済県本部が主催。岡山市を講師に内容を動として企画し、チカクが実施している。

卵の殻踏み「がれき」体験／シートで包帯作り

卵の殻を踏みながらの危険性を学ぶ。11月、倉敷市阿知の保育園で、防災教育セミナーを開催。約50人が参加。3日午前10時から、岡山市北区駅元町のママカフェで開かれた。約200名分のビデオを見て、防災教育について考える。定員200人を上り、無料。

大地震への心構えを

全労済県本部 岡山市でセミナー

災害について考える。口頭の報告が出た後、セミナー「子どもたちにも伝えたい防災のこと」でも盛り立てた。全労済県本部主催。岡山市内、約200名が参加。ビデオを見て、防災教育について考える。定員200人を上り、無料。

「子どもたちに伝えたい防災のこと」の取り組みの中で、岡山県内のNPOが行う体験プログラムの監修にあたっています。

保育士「若竹の園」で開かれたモデル授業は、防災教育セミナーは、約50人が参加。3日午前10時から、岡山市北区駅元町のママカフェで開かれた。約200名分のビデオを見て、防災教育について考える。定員200人を上り、無料。